

第42号 (2018-3月発行)

根郷 寿だより



発行 佐倉市立根郷公民館

〒285-0815 佐倉市城 343-5

☎ 043-486-3147 FAX 043-486-3686

E-mail negou-public@city.sakura.lg.jp

編集 根郷寿大学・根郷寿だより編集委員会

自分なりの「佐倉」を伝える

六班 犬丸 俊博

年二回、「遊友会・千葉」と称す元勤務先のOB会があります。国内外の事業所で経理関係に在職したこと、現役世代や退職後に「県内」に住んでいたことがメンバー要件という現在は十二名の小グループです。発足当初は交通の便より、船橋駅隣接の飲食店で例会を開催し、その話題は年金、持病や介護問題が中心というものでした。メンバーに聞いてみても、「佐倉」は成田、佐原への観光や成田空港利用の際に看板で目にはするが、誰も「佐倉」に立ち寄ったことはないという状況でした。会を重ねるうちに、当時、私が佐倉の観光ボランティア・ガイドに参加していたこともあって、メンバーから「一度案内して」という提案がなされ、次回の幹事指名とともに引き受けることになりました。



手元にある資料の他に、他の諸団体が主催する散策会には積極的に参加する一方、図書館通いを日課とすることで、自分なりの「佐倉」をイメージしました。翌四月の例会を桜満開の城址公園と武家屋敷・新町界隈を案内某和食店にて懇親会開催とする企画で、京成佐倉駅でメンバーを迎えました。にわか仕込みの案内ではありましたが、幸い天候にも恵まれ、参加したメンバーからは、「佐倉」の歴史や町並みに大変満足したとの言葉を頂きました。その後、メンバー各々が参加している写真や絵画の愛好会、あるいはウォーキング・グループで佐倉が選ばれ、その年の暮れには、写真展、絵画展への案内状が送られて来て、「佐倉」に関する作品を鑑賞することが出来ました。また、依頼によりご夫妻を城址公園を中心として案内したところ、奥様より「こんな近くに、緑あふれ、歴史ある街があることを知り、大変感動しました」とのお手紙を頂いたこともありました。その後、奥様の

関係するグループでは新メンバーの歓迎イベントを「佐倉散策」として、現在も続いているようです。OB会でも是非佐倉でもう一度との要望があつて、秋の例会をJR佐倉駅北口から彫刻通りを歩き、城址公園の紅葉散策や旧堀田邸とさくら庭園、最後に駅近くでの会食というルート設定としました。

その後、柏や野田でもOB会を開催しましたが、同街を案内するメンバーもなく、結局、現在は船橋の「料亭旅館」で、桜と紅葉の時期に合わせて継続開催しています。今年の例会で、「共通項である『千葉県』もつと知りたい」ということで、「千葉」の歴史・観光の座学を開催、その後の懇親会へ繋げていこうと言うことになりました。第一回でもあり、どの街や視点を持って座学を行うかは講師へ一任ですが、その講師には、上記の「佐倉」の案内人であつた私が指名されました。

ある程度の知識があれば、身近な人からの説明や言葉が最強のガイド

で、一人一人が佐倉の卓越した名ガイドになり得る可能性があるかと再認識した次第です。

とは言え、第一回の題材は、「船橋」、あるいは「銚子」か「香取」。

いやいや、我々の隣町、酒々井や四街道も面白い。まだまだ、佐倉には本佐倉城跡や印旛沼周辺など・紹介したい所が一杯。そう思いながらも、図書館通いや観光パンフ集めに忙しくなっています。OB会も私の人生もこれからも長く続かないとこれらを紹介出来ないや・・。

佐倉に縁あり、あれから三十八年

十班 渡部 敏夫

そうそう。佐倉との出会いは、昭和四十一年五月、武蔵野市にある某大学の一年のクラブ主催のバスハイキングだった。

今の成田空港の近くにあつた三里塚牧場へバス2台でエツチラ、エツチラと向かつた。

何せ、東関道もまだ無く、途中、

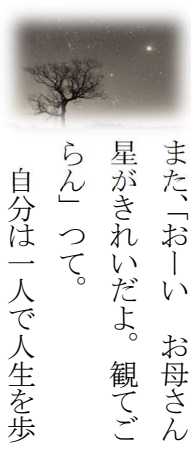
佐倉城址公園（歴史博物館）の田町駐車場での休憩とあいなつた、遠い、

お尻が痛かつた記憶が鮮明に今でも残っている。

その十三年後の昭和五十四年の師走、佐倉に家を建て引越した。

「おーい お母さん 外へ出てごらん」と、寒空の師走の夜更け、子供たちも寝静まつた夜、満天の星空が輝いていた、なんて綺麗なんだ、妻と夜空を見上げた。

あれから三十八年。二人の息子たちも独立し、今は、妻と二人だけの生活になっているが、今年の師走もまた寒いけど満天の星空を観られるかな。



また、「おーい お母さん 星がきれいだよ。観てごらん」つて。

自分は一人で人生を歩んできたのではない。妻、息子、嫁、孫。そして佐倉に引越越してきてからの長年の仲間等々と一緒に歩んできたのだから

年の瀬には、孫たちが来るという、きつと賑やかな正月を、また迎えることができるのだろうか。

今夏、息子たち家族、そして妻と私の総勢十人で私の古希を祝う会を開いてもらった。

何か照れくさいやら、こそばしいやら。でも嬉しかったな。

リタイアして早や五年、これといった趣味がない私、これからの人生いや余生といった方が正しいのか、いったいどのように過ごしていくのかな。

健康には自信があるものの、多少不安を感じている、でも自分は一人ではないんだよね。

あつという間の七十年、思い返せば、頑固で口数の少なかつた亡き親父、ちよつと怖かつたかな、暖かく、優しかつたお袋。

今までの恵まれた人生、そしてこれからも恵まれた人生を過ごしていきたいものだな、いや、他人にたいして、幸を贈れる余生を歩んでいきたいもの。

これまでの縁。そしてこれからの縁を楽しみ、感謝したい。

あらたな発見

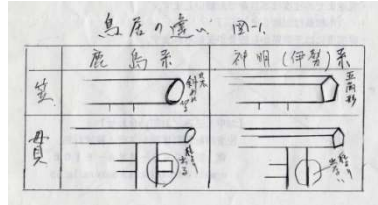
八班 木偶の坊

一つ目、鹿島神宮、石の大鳥居が平成二十三年東日本大震災で被害を受けた事はニュースでは知ってはいいても、その後の経過ははからずも知る事もなかったが、今、目の前には高さ二十・七メートル、幅十四・七メートルの鹿島鳥居がそびえ建っているではないか！

境内の杉の古木(五〇〇〜六〇〇年)を使用したと言う新しい大鹿島鳥居は圧巻でもあり木のぬくもりのある素朴な力強いものでした。(平成二六年復元)

鳥居でもう一つ、新神宮橋を渡る右前方に見えた赤い鳥居は高さ十八・五メートルあり平成二十五年に昔に戻り陸より水上に移された鳥居だそうです。(図1)

二つ目、「あれ！何かが違う、鳥



居、楼門をくぐると正面にあるはずの本殿がここでは見当たらない！

お参道を進むとありました、ありました。右側に一歩さがり静かに古色悠然と鎮座しておりました。御朱印を頂きながら巫女さんにチョット変ですよねと、たずねると「ここ鹿島神宮は北のエミシの侵入を防ぐ目的のためあえて北向に建っております」とのお見事なお言葉でありました。

鹿島神宮は北向に建っておりますのだ！(図2) ちなみに神宮は神武天皇元年に社殿を造立

楼門は水戸徳川頼房公の奉納(重文)

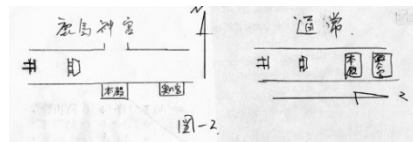
本殿は徳川秀忠公の奉納(重文)

奥の宮は徳川家康公の奉納(重文)

根郷公民館付近の変遷

三班 林 義之

城に生まれ育ち、根郷の村役場・小学校・公民館を間近に見てきたので、根郷寿大学入学を機にその移り



変わりをまとめてみました。

はじめに、「村役場」ですが、千葉県では明治二十二年に町村制が施行され、六崎・寺崎・太田・石川・城・木野子・大篠塚・小篠塚・神門の九村で「根郷村」が発足し、村役場は村の中央部である城に置かれました。

村役場跡はバス停「根郷」前で、現在、民家や忠魂碑があり、歩道には根郷村道路元標があります。また、旧村役場の門柱は根郷小の学童保育所脇に、タヌキの親子像は公民館西側にそれぞれ移設されています。

六十五年間続いた根郷村は昭和二十九年に佐倉町などと合併し佐倉市となり、翌年、旭村大字馬渡が編入しました。佐倉の地酒「旭鶴」は旭村にちなむものです。

次に、「根郷小学校」ですが、明治五年に設置された石川村小学校に始まり、明治三十六年に櫻南(六崎)・大誓(太田)・協和(神門)の各尋常小学校が統合して根郷尋常高等小学校が「県道沿いで村役場付近」という立地条件の場所(現プチモンドさ

くら、岩淵薬品付近)に設置されました。

「並木の緑影の濃く…」と校歌に歌われた並木は昭和三十年頃まで県道の両側に杉や松の大木があり、砂利道から砂埃が立ち込めるため根郷小の清掃は一日三回行われ、昭和三十九年の東京五輪聖火リレーは廃油と砂を撒いた上を走りました。

昭和三十八年、県道沿いから現在地に移転することにより校舎の鉄筋化が図られ、その後、住宅団地の造成などのため児童数が増加し、昭和六十二年度に寺崎小を、平成元年度に山王小をそれぞれ分離しました。

平成九年に『創立百二十五周年記念誌』の編纂に携わった際、今井校長から「地域の歴史も加えて」との要望があり各地の調査と写真撮影をすることとなり、それが根郷を知る契機となりました。



さらに、「根郷公民館」ですが、市制施行の昭和二十九年、旧村役場庁舎に佐倉市公民館根郷分館と市役所根郷支所が置かれスタートしました。

昭和四十五年七月、旧根郷小校庭の一部に完成した鉄骨二階建ての建物に根郷公民館と市役所派出所が移転開設し、専任職員が配置された公民館は翌年から根郷寿大学を開校するなど地区の学習拠点機能を發揮し平成四年二月の解体まで二十二年間て延べ約十八万五千人が利用しました。

平成四年度に入ると、人生八十年時代に対応した生涯学習施設を目指した改築工事が始まり、九月に山本館長から「落成記念式典は利用団体主体で開催してほしい」との要請があり、根郷地区青少年育成住民会議の会長であった私は図らずも実行委員長を務めることとなりました。

平成五年四月四日、大勢の皆さんの協力により「根郷公民館改築オープンフェスティバル and すくすくまつりねごと」を盛大に開催すること

ができました。ちなみに記念講演は小出義雄監督の「バルセロナ、そして私のマラソン人生」でした。

それから四半世紀、人生100年時代が議論される今、その公民館で新たな学びや出会いを大切にしたいと思っています。

中休みふれあいタイム・寿体操

八班 内野 牧夫

六月の運営委員会にて要望があった休み時間による五分間の運動を行っています。今迄に実施した内容と今後の進行予定をご案内します。

六月・血の巡り体験、七月・気を招く体操、八月・後出しジャンケン、九月・おだんごゲーム、十月・脳が働くテーマ曲「回り道」十一月・握り手送り、十二月・握り手送り②、一月・おだんご②、二月、長生き呼吸法・三月・エイエイ音頭、いずれも楽しく体をほぐして脳を生き生きさせる運動です。

さて、去る十月社会見学の折りに作詞した根郷寿大学の歌「回り道」をご紹介します。手と頭がテーマで

す。

空を仰げば根郷の空へ学び合い教えあい学び舎の中に、出会いと良かったねあなたの笑顔、手に手を取り合いつながってときめいてはばたいて前に進む。なお、三月親睦会の折り、回り道の三番として歌います。ご感想をお聞かせください。

所で根郷小学校等において市民運動教室を開いています。体の動き方を体験。土曜午前九時三十分から六十分。見学歓迎。ご参加下さい。



(二十九年十一月二十三日記)
心の糧 (大幅抜粋と私見加筆)

四班 齋藤たかし

・序・以下の文は昭和二十八年秋田県平沢中学の卒業生に贈られた心の糧を、大人になってからの思い出と癒しに繋がることを期待し、皆さんに読んで頂きたく筆を走らせました。「心の糧」の作者は私と同級生の父親で大手電子工業二代目の社長

(故人・後記・註参照)

― 月初めの朝 ―

昨日は既に飛び去った鳥である
クヨクヨするな

明日はまだ捕えぬ鳥である
取り越し苦労はせぬがよい
希望に燃えて今日を活かせ
己が使命を完全に果し

今日この日意義あらしめよ

・夕方

侮辱されたって笑って受け流せ
足をけられたらたって耐え忍べ
圧倒されたってつぶれるな
苦しいだろう悔しいだろう
しかし

その道は偉いと言われる人間が
一度は通った道なのだ

― 中旬の朝 ―

人が見ていなくても
認めてくれなくとも
馬鹿正直と言われても
黙々と働け

思った通り出来るものだ
案外疲れないものだ
論より証拠だ、試みよ

・夕方

忙しいので勉強しない

忙しいので掃除が出来ない

忙しいのでお手伝いしない

成程な！

それじゃ多分忙しく

生きているだけ

忙しいので死ねないだろう

―月末の朝―

早寝早起き朝ごはん

早起きは三文の得という

朝起きて体をほぐし

ウォーキングは防犯を兼ねごみ拾い

も出来る

何と幸せな人生だろう

朝ごはんが美味しい

・夕方

今日一日これという

善事も出来なかった

恥ずかしい事である

せめて他人の善事たりとも

称賛したいものである

(註) 平沢中学は十二期迄続き後に

統合。秋田県由利郡平沢町立平沢中

学校。後の仁賀保町平沢、現にかほ

市となり、市町村合併後に統合して
仁賀保中学校に校名を変更した。

・にかほ市は農魚工一体の町として

知られ、山形県遊佐町に隣接、国指

定史跡である百名山の一つ鳥海山の

眺望が見事である。(TDK発祥の地)

・秋田県側は由利本荘市に隣接。高

校時代は仁賀保駅(旧羽後平沢)か

ら北へ二駅目の羽後本荘迄通学した。

(校名、県立本荘高校)

「傘」

二班 福久 伍市

戦後昭和二十三、四年の小学校の

頃、家から学校まで一里を通学して

いました。物の無い時代

でしたので冬は寒いし夏

は暑い、食べ物もろくに

ない時代、毎日が大変だ

ったのをおぼえています

小学校は一クラスは四

十人位で、雨が降ると学校は休校に

なりました。クラスで傘を持ってい

る人は四、五人でほとんどの生徒は

傘が無いので学校は休みになります

だから天気が続くと雨が降るのを楽



しみにしていましたが、学校の帰りに

雨が降るとずぶぬれで帰ったもので

す。靴下もグシャグシャで長靴の中

までびしょびしょになり親に雨が降

ったら靴下はぬいで帰って来いと言

われたものです。

今、公民館や病院などが多く出

入口の傘立てには必ず何本か置いて

ありますが、そんなのを見ると子供

の頃を思い出してしまいます。公民

館などに置いてあるのを見ると、忘

れたのではなく置いて行ってしまっ

人が沢山入るみたいですね。傘は掃

いて棄てるほどあるなんて通学して

いた時には想像も出来ません。当時

傘は財産でした、置いてある傘を見

るたび遠い昔の良き時代のなつかし

さが浮かんで来ます。

「生活習慣健康法(仮初)」

七班 狩野 義昭

昨年七月、105歳でお亡くなり

になった「日野原重明」さんを「存

じの方も多いのではないだろうか。

日野原さんはお医者様で、お亡く

なりなるまで、現役医師としてエネ

ルギツシユに活動を続けておられま
した。

インターネットによると、書かれ

る本は次々とベストセラー、年間百

回を超える講演はいつも超満員、記

憶力は抜群にいいし、向上心につい

ては若者以上と紹介されています。

医学では、患者参加の医療や医療

改革に向けての提言、また終末医療

の普及など、そして「成人病」とい

う言葉に代わる「生活習慣病」を提

言されました。

結核にかかりながらも生き延び、

人命を救う医師への道を歩み続け、

「健康寿命105歳」の明治生まれ

の日野原さん、ご自身の長寿の秘訣

は、「日常生活そのものが生活習慣健

康法」であったと思います。

ところで、早々(はやばや)と現役を

卒業(十五年前)している私の場合

の「生活習慣健康法」は、存在する

のでしょうか？ 昨今の日常生活を

振り返り、健康に繋がると思える「生

活習慣」を具体的に探してみましょ

う。どんな日常が有るのでしょうか

思い付くままに、①朝のラジオ体操(やってる) ②週3〜4日位の30分以上のウォーキング(やってる) ③週1日以上(の休肝日(やってる?)) ④出掛けるときは時間に余裕を持ち「機会有れば歩こう」を心掛けています。

また、⑤平均寿命が長い女性の「炊事」「洗濯」や「掃除」など毎日休むことのない「家事」は、生活習慣健康法そのものに適合していると思います。

そこで現在、「炊事」については、食後の洗い物片付けをやっています。昼食の支度は七割くらい、夕食の支度は週一くらいです。

その他家事では、そうそう寝具の準備と片付けを毎日やっています。寝具の場合は布団の端を掴んで、万歳を数回やります、これは非常に良い運動になりますよ。次は、風呂場掃除もやろうと考えています。

現役を卒業されてる方で、日頃「家事」に参加していない方は、出来る家事から参加してみましよう。

そして「健康寿命」を延ばしましょう。また、佐倉市の市民大学などにも参加して、仲間作り、生きがいを持ちながらの活動の場作りなどをして「生活習慣健康法」を増やしてみませんか？



初夢

九班 古園 雅英

現在、人工知能(AI) AIの研究開発が凄まじい勢いで進められ成果も見え初めている。今やAIは囲碁将棋では人間に勝てる様になったし、文字の読み取りもできるし、画像を見て「これは犬だ」と解かる様になったし・・・である。

産業革命以降、機械化を推進し、我々は重労働から解放された。家庭内での仕事も大幅に軽減されて、洗濯を手でやる様な時代に戻りたいとは誰も思わない様になっている。結果、一次産業二次産業の従事者が減り、三次産業への労働力のシフトが行われた。

ここに(AI)の登場である。

家庭内には賢い機械が増え家事は更に楽になるだろう。車の運転も自動化されそうだし、様々な所で自動化が推し進められるだろう。定型的な事務処理業務は全てAIに置き換わりそうだし、営業もネット販売が更に増えビッグデータの解析に依る売れ筋商品の見極めもAIが行なうだろう。学校でも知識を生徒に教えるだけなら今すぐにもAIにできるだろう。医者の仕事でさえ一部はAIが代行するだろう。特に診断業務は！全ての分野で生産性が上がり



家紋の話

五班 吉野強三郎

我が家の「家紋」ご存知ですか？ 女の方は紋付の着物をお持ちの方も多く、我が家の家紋をご存知だとは思いますが、男は案外知らない方は多いのでは？最近では紋付袴を着る機会もなく、ましてお持ちの方は少ないのではないかと思います。

先日総理の官邸の記者会見を見ておりました、あれあのレクチャータンに付いている紋は「桐」(五七桐) 豊臣家の家紋ではと思いい調べてみました。「桐一葉落ちて天下の秋を知る」秀吉がなくなり、関が原で徳川に敗れた豊臣は天下人から退いた家系その紋が何で付いているのだろうか？秀吉の家紋は「桐紋」ですが他にも瓢箪の馬標や妻の実家の木下家の家紋を使っていた時期もあったそうです、しかし豊臣家の家紋と言えやはり桐紋の事を思い浮かべる事が多いと思います。

この桐紋ですが、一体どのような紋なのでしょう。この紋章は菊紋

とともに天皇家が使っていた紋です。我が家の紋とは違い格式がありそうな家紋です。

桐紋の「桐」とは、古代中国の神話に出てくる鳥・鳳凰が止まる木とされていて、昔から神聖なものとして扱われていたそうです。こうした風習が日本にも伝わり、日本でも八百年頃から天皇の衣類等に使われる等、皇室のみが利用できる格式ある紋章として使われていました。やがて、桐紋は天皇家のみならず有力な武家も使い始めるようになります。例えば、室町幕府の初代將軍である足利尊氏は、当時の後醍醐天皇からこの桐紋を恩賞として頂いたと言われています。天皇家から有力な武家へ、有力な武家からその家臣へ……といった風に、桐紋を使う家は少しずつ増えていったそうです。秀吉が桐紋を使い始めたきっかけも、信長からこの紋章を頂戴した為だと言われています。

一方、徳川家康は自分の家紋に権威を持たせる為に、葵紋の使用を徳

川將軍家および御三家に限るといった方針でした。家紋をどう利用するかは、時の権力者によって様々だった様です。

「菊の香りに葵が枯れる」それで明治政府も天皇家が使っていた「桐紋」と「菊紋」を比べ、誰か？偉い人が「菊紋」の使用は恐れ多いが「桐紋」だった良いのでは？となった。

（真偽の程は解りませんが、パスポートは菊紋です）レクチャー台の紋章は正式には「総理大臣紋章」と呼ばれるものでした。また家紋は日本だけで二百四十一種、五千百十六紋以上の家紋があるそうです。

それなりに元氣

八班 阿久津 晃作

人生百年の時代、日本で生まれた今の小学生の子供たちの半分は、百七歳以上まで生きる事が予想されており、敬老会で市長の話、市内に百歳以上の長寿の方が八七人いらっしやると、根郷寿大学在校生の平均年齢も七五歳と後期高齢者となり、健康意識が高まってきております。

七月の『生活習慣病予防講座』で健康寿命介護予防について、病気を治すという前の病にならないようにする、老化しないように言う健康医学を、十二月の『笑いヨガと自力整体』で、心と身体の手技ふれあいで免疫力自然治癒力がますことを体験し学びました。

高齢社会日本で一人ひとりの健康維持は重要なテーマです。

世界保健機構の憲章では『健康とはただ疾病や傷害がないだけではなく肉体的精神的ならびに社会的に完全に快適な状態であること』と定義されています。

個人の健康条件としては、疾病がない事、食欲が充分あり便通が良い事、元氣よく疲れにくい事、睡眠が充分とれる事、抵抗力があり病気がかかりにくい事、姿勢がよく身体の調和がとれている事、まあこれだけの条件を全てクリアー出来る人が果して何人いらっしやるでしょうか。一病息災で頑張ってる方、複数の持病薬を飲んでるか方でもそれな

りに健康と言えるのではないでしょう。毎日の生活の中で、心や体にかかる負担ストレスは、長い年月の中で知らず知らずのうちに、体のさまさまの部分少しずつ衰えさせ老化が忍び寄ってくる、加齢による様々な障害は個人DNA差もあり、その養生は一概には言えませんが、バランスの取れた食事、適度な運動と睡眠、趣味を生き甲斐に人とのかわりを大切に、何事にも好奇心を持ち積極的に前向きにとりくむ姿勢が健康で元氣でいられる生き方ではないでしょうか。

いつまでもまずまずの健康を保ち、歳なりに元氣です。と

あの時代の子育て

元寿大学生 廣吉 正毅

近ごろは昔に比べて少年の大きな犯罪がニュースになり世間の関心を集めている。

私が子供の頃は、寝やものの善悪は、



学校よりむしろ各家庭で教え込まれたと思う。大戦が終わって国民の意識が、大きく変わったところの話である。たまたま祖母（母方の）が何か

の用で私の家にいた。そのとき私は小遣いをねだって母を困らせていた。

明治生まれの祖母はしやきつと背筋を伸ばした、何かしら近づきがたい雰囲気をもった人だった。聞き分けのない私のようなを見ていたらしく、ややあつて、「「ひとのふりみてわがふりなおせ」つて言うじやろう。無理を言うもんじやない」とぼつんと言った。

そのころ私は小学生であった。祖母が言ったことばの意味が、正直いってよくわからなかった。あとでずっと祖母にたずねた。

曰く、他人のやっていることをよく見てみにくいこと、駄目なことは真似るものではない。昔からの諺だからさつきのように、「ダダをこねたりして親を困らせてはいけない、と言ったのだ、と教えてくれた。実は私の家は早くに父を亡くしたことも

あって、生活は決して楽ではなかった。以後このことばは私の人生の糧として、忘れることなく、今なお心の中で生き続けている。

昔は家庭と同じように地域でも子供を育てていたといえる。地域の大人は道で子供にあつたときなど「おはよう、こんにちは」と言うのである。さらに「元氣か、どこに行くのか」など話しかける。子供たちは、気が進まないようだが、そのうちつられるように大人の話に乗ってしまう。こういう会話の中で子供は自然に必要なことを学び、さきにも書いた、ものの善悪とか、そのほか年長者に対する礼儀作法、年下に対するの接し方など社会規範を覚えていったものだ。

幼児期にしつけと道理をちゃんと教えさえすれば、子供は成長しても、法を犯すような人間になるはずはない。

だまされ被害に会わない五ヶ条

一班 大越 清

①誰でもがだまされる可能性がある

ことを忘れない。

②親切にボロ儲け話で誘う人は「詐欺師」と思え。

③電話で金銭の話が出たら、まずは「詐欺」と疑え。

④今、本当に必要でなければ早くはつきりと断わる。

⑤息子や娘・家族・友人など、自分の味方をとっさに見いだす。



普段持ち歩く手帳やスマホのメモ欄などに記入して、時々目を通し、自分自身への教訓としています。詐欺被害が出ないように参考にしてください。

川柳投稿 寿シルバー川柳

七班 山城 安男

- ・おとつと何かと見れば何もなし
 - ・老いて知る今はシラフで千鳥足
 - ・大声でチャンネルよりも音量
 - ・口癖に身体元氣だ笑顔だけ
 - ・孫ヒーロースマホあやつり家族会
- 編集後記
- ・公民館の人事異動がありました。

(十月一日付)

新任 主査補、下原 勉

転出 学芸員 松田 富美子

十月市役所文化課に転勤

二年六ヶ月お世話になりました。

・本年の「根郷寿大学」は今回の講義をもって修了です、皆様には一年間受講お疲れ様でした、どの講義が良かったですか、サークル活動は楽しかったですか、五月から「根郷寿大学」が開講されます、新年度のご入学をお待ち致しております。

・「根郷寿だより」の発刊も今回で四二号です。今回は各班編集協力者のお陰様で多数の投稿をいただき有難うございました、新年度の発刊は九月の四十三号、来年の三月に四十四号の発刊を予定致しております、出来るだけ多くの方から投稿頂き一部の人がならない様皆様に投稿のお願いを致しております、政治的主張、宗教勧誘、営業・宣伝等の内容でなければどの様な内容でも結構です、俳句、短歌、川柳の投稿も歓迎です。宜しくお願い致します。